



大竹市議会YouTube



名前横の時間は一般質問開始時間です。

**山崎 年一** (2:32~)

- マイナ保険証のトラブルについて問う
- 高齢者・社会的弱者対策について問う

**日域 究** (46:43~)

- 課税対象地とするルールの明示を
- 市有地等を使った温暖化対策を

**寺岡 公章** (1:54:03~)

- キャリアスタートウィーク (CSW) の成果について
- 学生インターンシップの受け入れについて

**中川 智之** (2:16:43~)

- 発達性読み書き障害 (ディスレクシア) について

**岡 和明** (2:38:05~)

- 廃止されかけている大竹駅伝

**細川 雅子** (3:18:59~)

- 市制施行70周年の事業について

**豊川 和也** (3:58:55~)

- 「NHKのど自慢大会」の大竹市で誘致を
- 「広島県自主防災アドバイザー」の育成を

**答** 市内医療機関でのマイナンバーカードと健康保険証との紐付けに関するトラブルの相談は、現在のところありません。議員のご提案については、マイナンバーカードと健康保険証の一体化が、既に法改正もされていることから難しいと考えますが、健康保険証廃止後の対応については、全国市

**問** マイナ保険証によるトラブルが全国的に相次いでいます。世論調査でも7割の国民が、保険証廃止の「撤回・延期」を求めています。政府はマイナ保険証のない方には「資格確認証」を発行するとしています。すでに社会に定着し安定的に運用されている現在の紙の保険証を存続させるべきと考えます。

マイナ保険証の  
トラブルについて問う



山崎 年一

**答** 現代社会では、高齢夫婦だけの世帯も多く、長時間介護のため、精神的・肉体的に疲弊しているにもかかわらず、相談する相手がいない家庭が多くなっています。介護者が孤立せずに相談機関に相談することが問題解決の第一歩につながると考えます。10月から開設する相談窓口「まるっと大竹」を中心に、包括的に支援する本市独自の地域共生社会を構築していきたいと考えています。

**問** 厚労省の「国民生活基礎調査」では要介護者、家族とも65歳以上の世帯が6割超え、75歳以上同士の家庭も35.7%。同居、別居とも介護者の7割を女性が担当し、長時間の介護が健康や精神に深刻な影響を与えています。介護費用も要介護5で1カ月7万5千円と、介護保険が機能せず家族に重い負担を与えています。

高齢者・社会的弱者対策  
について問う

長会を通じて、国民や保険者などの関係者に混乱が生じないように、十分な周知や情報提供を行うよう国に要望しています。



日域 究

課税対象地とする  
ルールの明示を

**問** 固定資産税は法務局の登記を元に課税することが地方税法に定めてあります。公図に問題がある大竹市では法務局の公図に無記載の地番でも、その一部を独自の判断で課税対象としています。しかし、何を根拠に土地の存在を判断するのかという基準を定めた明文規程はあるのでしょうか。課税法定主義の面からも、担当者任せでは問題ありだと思えます。

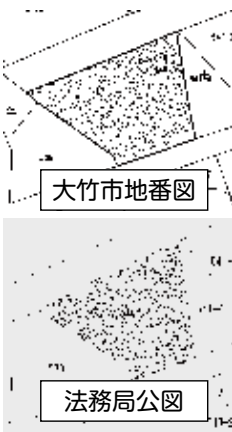
**答** 本市では、規則や規程などを定めていませんが、現地調査により存在が把握できた場合に、課税台帳に記載しています。地方税法では、登記されていない固定資産でも現地の課税客体が存在することにより補充課税台帳を作成し、それを根拠に課税できる制度となっています。法

務局の公図への記載の有無が直接の要件ではありません。

市有地等を使った温暖化対策を

**問** 環境省が推進しているPPAもソーラー発電ですが、電力会社に売電する経産省推進のFITと違ってまず自分で使い、余れば民間企業にも電力を売却できます。自ら発電すれば天然ガスが値上がりしても平気です。まずは小方学園西側の遊休地での導入の可否について考えを伺います。

**答** PPAという民間資金活用用の新たな手法は、脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの普及を後押しするものの一つと考えています。小方学園西側の遊休地については、グラウンドより約30m高く、日当たりがよく、地盤も固い場所です。設備投資や廃棄時のことをトータルで考えて可能性について研究していきたいと思えます。



▶公図にない地番も加えられた  
大竹市の地番図(油見2丁目)



寺岡 公章

キャリアアスタートウィーク  
(CSW)の成果について

**問** この夏休み、中学生の職場体験事業が再開されました。あらためて目的や効果、実績について、また令和5年度事業の様子を振り返り、職種や地元に対する生徒の関心や理解につながっているかどうかを伺います。

更に、以前提案した学校への受け入れは、ご検討の結果、現在どう扱われていますか。

**答** 生徒の勤労観、職業観を育むことを目的に実施し、「働く」ことに対し実感を持たせたこと、生徒に向上的な変容が見られたことが大きな成果で、地元で働くことや職種への理解や関心も高まっていると感じています。

学校での受け入れは、小学校のほか、幼稚園等での実績があります。

学生インターンシップの  
受け入れについて

**問** 大竹市役所は大竹で働く受け皿の一つとしての役割があります。

受け入れた現役職員も、自身が理解把握していないと指導できませんから、自分の仕事への考察になります。

既にCSWを通じて庁内にある受け入れノウハウを生かして、学生インターンを広く募集し、人材が大竹市役所に目を向けてくれるチャンスを広げませんか。

**答** 学生の公務職場への理解を深めることや早い段階で自治体のことを知ってもらう良い機会と捉えています。導入については他市町の状況も踏まえ慎重に検討したいと思えます。人材確保のためには、受験希望者への事前説明会の開催や市ホームページ、SNSなど情報発信に力を入れることも有効であると考えています。



消防署でのCSW



中川 智之

発達性読み書き障害  
(ディスレクシア)について

**問** 学習障害の一つである、読み書きに困難を感じるという特徴をもったディスレクシアを小中学校においてどの程度認識し、把握されているのでしょうか。

① ディスレクシアの疑いある児童生徒を、早期に発見できるように専門医の診断も必要と思われませんが、現在どのようなことが行われているのでしょうか。

② 黒板の文字を写す代わりにタブレットで写真を撮るなど、タブレット端末の活用を促すことも必要だと思いますが、いかがでしょうか。

③ 合理的配慮への理解を他の児童生徒や保護者に周知することや、本人が合理的配慮を受けやすくするためにどのよ

うなことが必要とお考えでしょうか。

**答** ① 未就学児については入学前に希望する保護者への教育相談を実施し、入学後の児童生徒については、学習や学校生活の様子で気になることがあれば担任から保護者へ連絡し、必要に応じて医療機関等と連携し支援につなげています。

② タブレット端末の活用により、学習の困難さが軽減される場合もありますので、対象児童生徒や保護者の思いに寄り添い、効果的な活用方法を検討しています。

③ 一緒に学習する児童生徒、場合によっては保護者に対し、なぜ支援が必要かを丁寧に説明し、理解を得ることが必要です。ともに学ぶ集団づくりや学習しやすい環境づくりのために、教職員も知識を身に付け実践できるよう努めていきます。



廃止されかけている

大竹駅伝



岡 和明

**問** 今年1月に予定されていた第70回大竹駅伝は、直前12月19日に突如中止され、1952年から「たすき」をつないだ日本屈指の歴史ある駅伝そのものが廃止されかけています。高齢化などを理由に挙げますが、本当の理由は警察の規制を甘くみて開催に失敗したと聞きます。

年明けに晴海で代替のリレーマラソンを予定していますが、運動場外縁1.2kmを35周回する行事が「本市の魅力を広げる発信すること」になるでしょうか。大竹の魅力の一つは世界で注目が高まる瀬戸内の海と島にあります。この絶景を望む晴海堤防コース(5km)を8周する駅伝を設定し、「せとうち駅伝」と名付け

て大竹駅伝を継承したいと思いますが、いかがでしょうか。

**答** 例年と同様に準備を進めましたが、多くの熟練スタッフが高齢化などを理由に辞退され、新規スタッフに対する研修のための機会・期間が十分確保できませんでした。また、ランナーの安全確保や渋滞回避のための対策を、短期間で行い、安全に開催できる水準を満たすことは困難であり、やむを得ず中止としました。

リレーマラソンは、チーム力を合わせて完走を目指し、楽しみながら達成感や充実感を味わえることが特徴で、駅伝とは趣向が異なるものです。議員がご提案になられたコースは交通渋滞が予想されることや、堤防上は安全面の懸念があるため、コースとして使用しない予定です。リレーマラソンを駅伝の代替には位置づけていますが、市民から愛され、市内外から多くの参加者が集まるものになりたいと思っています。名称については、実行委員会の構成団体から市の名前や特徴などを全国に発信できる名称が望ましいとの意見もいただいています。





細川 雅子

市制施行70周年の  
事業について

**問** ①来年は大竹市制施行70周年を迎えます。まちづくりの視点からの記念事業の意義と現在の準備状況。今後の予定をお尋ねします。

また、市民との協働事業について考えはありますか。  
②60周年記念事業は市民から提案いただいて市と一緒に事業をされました。どのように総括されましたか。  
③70周年事業を市民と協働ですることで本来業務に大きな支障が出るようなら、民間のまちづくり会社の応援をお願いする方法もあると思います。ご検討をお願いします。

**答** ①来年9月1日の市制施行70周年の節目を市民に周知し、一緒に祝うことで、ふるさと大竹への愛着を深めてもらうことを目的に記念事業を実施します。現在、各課から提案のあった記念事業について、一旦、整理しました。記念事業には、市民との協働の視点で、市民と一緒に実行委員会形式で実施してきたこい・こいフェスティバル等の一定規模以上の市民が参加する既存事業に対して、70周年を記念して補助金を増額する案や、市民からの提案事業について助成する案等が挙がっています。最終的には令和6年度予算編成作業で事業精査していく予定です。  
②過去の60周年記念事業では、16件の市民提案事業を実施しました。市民の方々がまちづくりに参画してもらったきっかけになった点では成果がありました。また、市職員も市民と協働して事業を実施することで、大変有意義な経験となりましたが、一方で、職員の業務負担が増大したという課題もあつたと総括しています。  
③事業手法については、今後、70周年記念事業の全体事業を選定していく中で、事業委託する方法も含めて、内部で協議していきたいと考えています。



豊川 和也

「NHKのご自慢大会」  
の大竹市で誘致を

**問** 大竹市において、NHKのご自慢大会を誘致していただき、まちづくりの文化芸術の振興とともに、全国の方に大竹市を知ってもらい、番組を通じ市民と一体化してのご自慢大会に出席したり応援してもらいたい、市外からもぜひ観覧に来てもらいたいです。今後、本市での番組誘致などのご予定をお尋ねいたします。

**答** NHKのご自慢等の全国放送の公開番組は、文化施設の落成や周年記念等の際に自治体からの要請に応え、地域の活性化や地域文化の振興に寄与することを目的としているとのこと。NHKのご自慢を開催できる規模の文化施設の落成等は、今のところ予定していません。今後、そのような節目には、地域の活性化や地域文化の振興につながるイベントとして、さらには全国に情報発信ができる好機と捉え、NHKのご自慢の誘致も含めて検討します。

「広島県自主防災アドバイザー」  
の育成を

**問** 広島県が認定する「広島県自主防災アドバイザー」は広島県には220名程度おられますが、大竹市在住者の方による認定は0名となっております。現在、防災アドバイザーは県内各地で防災講習会や自主防災組織設立する際の助言などをしております。

今後において大竹市在住者の方での育成などはありますか。

**答** 本市在住の自主防災アドバイザーがいれば、災害発生時、早期の協力や、市民や自主防災組織との円滑な相談体制が期待できますが、直ちに確保することは困難な状況です。今後、さまざまな知見を有する県自主防災アドバイザーの協力をいただきながら、自主防災組織の設立と育成を進めていきます。